

再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名	一般国道474号三遠南信自動車道青崩峠道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局	
起終点	自：長野県飯田市南信濃和田 至：静岡県浜松市天竜区水窪町奥領家	延長	約13.1km			
事業概要：三遠南信自動車道は飯田市・浜松市を結ぶ全長約100kmの路線であり、東名・新東名・中央道を高速ネットワークで連絡することで災害に強い道路網の構築、地域医療サービスの向上、観光・交流における地域間連携等の地域間の強化、三遠南信地域の秩序ある開発や発展に寄与する道路である。その一部を構成する青崩峠道路は、一般国道152号の通行不能区間の解消とともに、長野県南信地域及び静岡県北遠地域への高速交通サービスの提供、並びに当該地域の活性化等を目的に計画された長野県飯田市南信濃和田から静岡県浜松市天竜区水窪町奥領家に至る延長13.1kmの一般国道の自動車専用道路です。						
S58年度事業化		H一年度都市計画決定		S60年度用地着手		
S61年度工事着手						
全体事業費	約930億円	事業進捗率	26%	供用済延長	0km	
計画交通量	4,100台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)	1.1	総費用 (事業費)	575/955億円	総便益 (総便益)	1,048/1,048億円
	(残事業)	1.8	(事業費)	537/917億円	(維持管理費)	38/38億円
				(走行時間短縮便益)	801/801億円	
				(走行経費減少便益)	215/215億円	
				(交通事故減少便益)	32/32億円	
感度分析の結果：残事業（事業全体）について感度分析を実施 (残事業) 交通量変動：B/C=1.8(交通量+10%) B/C=1.6(交通量-10%) 事業費変動：B/C=1.6(事業費+10%) B/C=2.0(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=1.7(事業期間+10%) B/C=1.8(事業期間-10%)						
事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ・現道等の年間渋滞損失時間削減が見込まれる。【42,962万人時間/年→42,878万人時間/年 約2%削減】 ・南信地域から新幹線駅、空港等へのアクセス向上が見込まれる。 【豊橋駅160分→100分、浜松駅150分→120分、中部国際空港160分→140分】 ②物流効率化の支援 ・南信地域から重要港湾三河港へのアクセス向上が見込まれる。【160分→110分】 ③国土地域ネットワークの構築 ・飯田市と浜松市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成。 ・国道152号の交通不能区間を解消する。 ④個性ある地域の形成 ・三遠南信地域一体での活性化を目的にした「三遠南信地域連携ビジョン」を支援。 ・遠山温泉郷などの主要な観光地へのアクセス向上が期待される。 ⑤安全で安心できる暮らしの確保 ・飯田市立病院（三次医療施設）への搬送時間60分圏域が拡大。 ⑥災害への備え ・浜松市道等の事前通行規制区間の回避可能。 ⑦地球環境の保全 ・CO2排出量が約41千t/年(約0.3%)削減。【15,375千t/年→15,334千t/年】 ⑧生活環境の改善・保全 ・NO2排出量が約3t/年(約20%)削減。【15.15t/年→12.16t/年】 ・SPM排出量が約0.2t/年(約19%)削減。【0.81t/年→0.66t/年】						
関係する地方公共団体等の意見 ・青崩峠道路は、通行不能区間を解消し地域交流の促進等に重要な役割を果たすことが期待されており、長野県をはじめとする関係3県5市9町12村の首長で構成される三遠南信道路建設促進期成同盟会より早期整備の要望（平成17年6月16日）を受けている。 ・県知事の意見： ○三遠南信自動車道は、高速交通ネットワークの拡大はもとより、長野・愛知・静岡3県の交流促進や地域経済の活性化、さらに救急医療圏の拡大や災害時の代替機能確保など、本県の骨格となる極めて重要な道路であると認識。 ○急峻な地形が多い本県における道路整備は、トンネルや橋梁等の構造物が多く含まれ、通常に比べ工事費が増高することから費用便益比が低い数値となるのは必然であり、単にこの数値にとらわれることなく、現行の便益計算方法に含まれない効果についても適切に評価することが必要であると考え。 ○地元飯田市をはじめとした沿線市町村からも、早急な整備を熱望されているところであり、長野県と						

しては、「事業継続」を図るとともに、積極的な予算確保と早期完成に向けた事業の推進を強く要請する。

・浜松市長の意見：

- 対応方針（案）「事業継続」について異議なし。
- 今後は早期整備に向けて、22年度以降の安定的な予算確保及び事業推進を切望する。
- 費用便益比(B/C)のみならず、災害時における孤立集落、救急医療など安全・安心な生活を守る道路であるとともに、高速サービス向上による広域交流や地域間の活性化につながる重要な道路であるので、今後ともご支援お願いしたい。

事業評価監視委員会の意見

「事業継続」することは「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

高齢者人口割合が天龍村、大鹿村で50%を超え高齢化が進展

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・環境アセスメント評価書の縦覧が完了
- ・小嵐IC〔仮称〕～水窪北IC〔仮称〕について、測量、道路設計を推進
- ・事業進捗率は26%、用地取得は未着手。（平成21年度末 見込み）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

小嵐IC～水窪北IC間L=6.0kmについて、早期供用に向けて鋭意事業推進を図る。

施設の構造や工法の変更等

トンネルズリの有効利用、工事用道路ルートの見直しにより、コスト削減を図る予定。

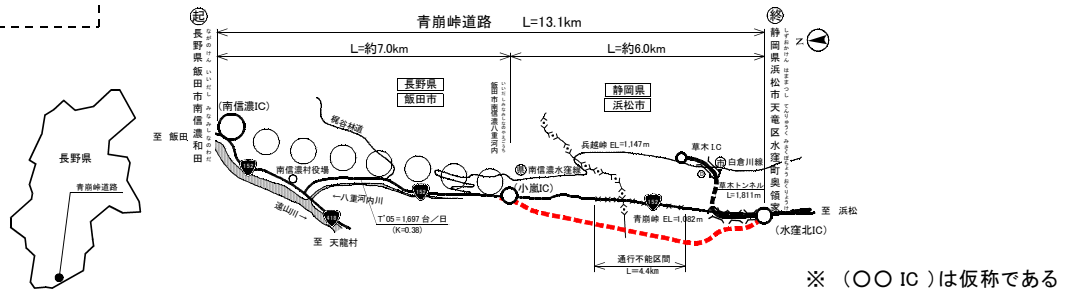
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。